

日産厚生会玉川病院を受診された患者さまへ

当院では下記の臨床研究を実施しています。本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にご連絡下さい。

研究課題名（研究番号） 胸腔子宮内膜症性気胸における術後ホルモン療法の意義
(No.)

当院の実施責任者 坪島顕司（気胸研究センター）
(所属)

他の研究機関および
各施設の研究責任者（所属） なし

本研究の目的

胸腔子宮内膜症性気胸（TEP、いわゆる月経随伴性気胸）は30-40歳代の女性に発症する難治性の疾患です。何らかの理由で本来お腹にある子宮内膜組織が肺の表面や横隔膜などに存在しています。その子宮内膜組織が生理周期に合わせて弱くなり、肺や横隔膜に穴があいてしまうため自然気胸を繰り返し発症するものと考えられています。日本エンドメトリオーシス学会のガイドラインでは手術で胸の中の子宮内膜組織を切除することが再発予防の第一選択とされていますが、稀な疾患のため標準治療は確立していません。また手術を施行しても術後再発は他の自然気胸より多く、その一因は手術中に病変が小さいため発見できず取り残した子宮内膜組織であると推定されます。お腹の子宮内膜症では術後に追加してホルモン療法を行うことの有用性が報告されていますが、TEPではこうした検討はほとんどなされていないため、研究を行うこととしました。

今回、2011年1月から2021年6月までにTEPに対し当院で手術を受けた方を対象として何らかの理由で術後にホルモン療法を行った方と行わなかった方の術後再発の有無や頻度を比較する調査いたします。

本研究を学会、論文発表することで、TEPの治療成績向上に役立つことが期待できます。

調査期間 倫理委員会承認後から2023年3月31日まで

研究の方法
(使用する試料等)

●対象となる患者さま

当院で2011年1月から2021年6月までにTEPに対し手術を受けた方

●利用する情報

カルテに記載のある診療記録、検査データを利用します

試料/情報の他の研究機関への
提供および提供方法
個人情報の取り扱い

なし

利用する情報から氏名や住所等の患者様を直接特定できる個人情報は削除し解析を行います。また、研究成果は学会や論文等で発表を予定していますが、その際も患者様を特定できる個人情報は利用しません。本研究のために収集したデータは、研究終了後5年間保管し、その後はすみやかに消去します。

本研究の資金源
(利益相反)

お問い合わせ先

備考

本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません

電話：03-3700-1151 (代表)

担当者：坪島顕司